

第6学年 総合的な学習の時間の実践

1. 単元名 夢発見プロジェクト

2. 単元の目標

○身近な職業の様子やその役割が分かる。

○仕事にはそれぞれいろいろな役割があることや、人々の暮らしとの関連性とそれぞれの仕事の大切さが分かる。

【知識・技能】

○学習を通して得られた仕事を選んだ「理由」や、仕事の「やりがい」を整理・分析して、自分の将来の職業について考えることができる。

【思考・判断・表現】

○インタビューや調べ学習に進んで取り組み、自分の将来の職業について進んで考えようとしている。

○自分の将来の職業について考えることを通して、将来の夢や希望をもち、具体的な目標を立て、自分の生活に生かそうとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

3. 学習活動について

(1) 児童について

本学級の児童は、言われたことを素直に聞いたり、学習に真面目に取り組んだりすることができる。ペアやグループでの話し合い活動では、意見を出し合ったり、教え合ったりする姿が見られる。一方で、全体での発言に対して抵抗感のある児童が多く、大人数の前で自分の考えを表現したり、出された考えをもとに練り上げたりすることに関しては課題が見られる。総合的な学習の時間にはこれまでも地域の特徴や平和について、探究的な学習過程を意識して、自分たちで課題を設定し、その課題を解決するために情報収集し、整理・分析した上で表現する学習を経験してきている。情報収集については、インターネットに頼る傾向が見られるものの、図書や人に直接聞くことが手段としてあり、多様なメディアを用いて情報を収集することの大切さは理解している。

平成31年度全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標をもっていますか。」「人の役に立つ人間になりたと思いますか。」という質問に対しては、以下のような回答状況である。この結果より、本学級の児童は多くの児童が将来の夢や目標をもち、人の役に立ちたいと考えていることが伺える。

しかし、これまでに職業観について学習をした経験はなく、現在の将来の夢や目標に関しては児童の興味関心に基づくものであると考えられる。働くことは自己実現の一つになるのと同時に、社会貢献になり、人の役に立つという側面があること、社会を構成する一員となることなどに、学習を通し

て気付くことで、より幅広い職業選択の可能性に気づき、将来に向けた具体的な目標をもつことができる考える。

平成31年度全国学力・学習状況調査 児童質問紙

(8) 将来の夢や目標をもっていますか。

	あてはまる	どちらからといえば あてはまる	どちらからといえば あてはまらない	あてはまらない
人数(人)	26	6	1	1
割合(%)	72.4	20.7	3.4	3.4

(16) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

人数(人)	25	4	0	0
割合(%)	86.2	13.8	0	0

また、児童が実際に社会に出て職に就く頃には、Society5.0と言われる社会が到来していると言われている。Society5.0の社会においては、AIがこれまで以上に生活の中で活用され、仕事のあり様も変化していくことが予想される。そのような社会において、自分は何を大切に仕事を選ぶのか、何をやりがいとするのかといった自分自身の価値観がより重要性を増すと考えられる。これまでも道徳の学習などで自己を見つめ直す学習の経験はあるものの、職業と結び付けて考える経験は十分ではない。

学習でICT活用をする経験をしてきた結果、課題解決にICTを主体的に活用する態度も身に付きつつある。タブレット端末を用いて情報を収集し、収集した情報を整理・分析し、スライドを作成してプレゼンテーションをするなど、ICTを活用し、自分が学習してきた内容や、自分の意見や考えを表現することができるようになってきた。

(2) 単元について

本単元は、児童が自己を見つめ直し、自分の良さや興味関心について知るなど、自己理解を深めた上で、将来の職業について考える学習である。本学級の多くの児童が、将来の夢や目標をもっている。仕事をするものの意義や、世界には数多くの仕事があり、自分の長所や興味関心に合う仕事も多く存在することを知ること、より広い視野で自分の将来について考える機会になると考えられる。そうすることで、自分の可能性を広げることに前向きになり、目標をもって成長していくことを期待して本単元を設定した。

第一次の「自分を見つめ直そう」では、自分を見つめ直し、自分の良さや興味関心のあること、好きなことについて自己理解を深める。それぞれの良さについては、自分だけでなく友達と良さを伝え合うことで、自分でも気付いていない良さに気付けるようにする。また、興味関心のあることや好きなことについては、対象となる物事の何にひかれているのか、その要素まで突き詰め、自己への理解を深める。ここで深めた要素が、自己と仕事との共通点を見つけるときに役立ち、自分の将来への視野を広げることにも役立つ。また、自分たちが職に就くであろう時期には、社会はSociety5.0時代を迎えていることやその社会の概要を知ること、自分たちの将来に希望や不安を感じると考えられる。その希望や不安から、自分が仕事を選ぶ際にはどのようなことを大切にしていけるのかという、単元を貫く課題の必要性に児童が気付く考える。

第二次の「仕事の選び方ややりがいを探ろう」では、いろいろな仕事についている方々にインタビューをし、どのように仕事を選んだか、何が仕事のやりがいを探り、整理・分析して理解を深める。仕事を選んだ理由やその仕事のやりがいから、必ずしも自分「夢」の仕事でなくても、自分の良さや興味を生かすことができることを選ぶことや、貢献の仕方は仕事によって異っても、社会に貢献することがやりがいになっていることなどに気付くことができるようにする。今回は児童にとってふるさとである、木次町の方を中心にインタビューを行う。木次町で働く人との出会いは、木次で働くことの良さや厳しさに触れるとともに、木次のために働くという人々の思いに触れることになり、児童がふるさとについての考えを深める契機にもなると考える。ここで、インタビューなどで得られた情報をタブレット端末に蓄積していく。そうすることで、異なる職業の、職業選択の理由やその仕事のやりがいを俯瞰することができ、仕事や人によって異なる部分や、それらを越えて共通する部分があることに気付くことができると思う。ここではなるべく多様な価値観に触れさせ、自分が仕事を選んだり、働いたりする際にどのようなことを大切にしていこうかということについて、自分なりの考えを形成することができるようにする。仕事をしている人は一人一人自分なりの価値観を持っていることに触れることは、他者と同じかどうかを気にするあまり、全体の中で自分の考えを表現することに抵抗感のある児童にとって、自分なりの考えの大切さに気付く機会にもなると考える。

第三次の「魅力ある仕事を探そう」では、自分の良さや興味をもとに、合致しそうな仕事を探す。その際には、単純に自分が好きなことや興味関心のあることに加え、二次までで学習したことを生かし、自分の好きなことや興味関心のあることの要素と共通する仕事も視野に入れて、仕事調べをしていく。具体的には「夢の仕事」「(夢に近い) 興味のある仕事」「新しく見つけた仕事」をそれぞれ調べる活動を行う。仕事を一つに絞らずに調べ学習を進めることで、より広い視野で自分の将来について考えることにつながることをねらう。この活動を通して、一次で見つめ直した自己と、二次で深めた仕事との関わりについて、関連付けて考えを深められると考える。加えて、その職業に就くためにはどのような進路があり、自分が今すべきことは何なのかを調べたり、考えたりすることは、児童のキャリア形成能力を育成するのに有効であると思う。

第四次の「夢を語ろう」では、自分の「夢」を、より具体化させて語れるようにする。自分が魅力あると感じた職業について調べてまとめたことや、これまでの成果物を生かして、自分の将来設計をまとめる。「～を頑張る。」といった漠然としたものではなく、「〇才のとき、～をする。」など、具体的な行動目標を立てることで、将来に向けて目標意識をもって生きることにつなげたい。単元の学習のまとめとなる自分の将来については、小学校生活最後の授業公開で、友達や保護者に、将来の夢やそこに向けての人生設計などを紹介する。表現の場では、これまで収集してきた情報を根拠にして表現する。そのことにより、全体の中で表現することに抵抗感のある児童であっても、自信をもって発表することができると思う。

(3) 指導にあたって

○研究の視点(1)

学ぶことに興味や関心を持ち、課題解決への見通しをもって学習に取り組めば、自分の思いや考えを持ち、主体的に学習に関わろうとする子が育つであろう。

【①教材・学習課題との出会いの工夫】

課題設定に際しては、児童が社会に出る時期の社会の様子を動画で見せることによって、自分たちの今の社会に対するイメージとのずれを生じさせる。そうすることで、児童は必要感をもって学習課題を設定することができる考える。学習計画を立てる際には、児童自身がどうしたら自分たちの課題を解決できるかを考え、計画を立てることによって、学習の見通しをもつとともに、学習意欲を高めることができる考える。調べ学習に際しては、身近な人や自分の興味関心のある仕事に関する調べ学習から始める。児童にとって自分自身の知っていることやイメージを膨らませることから出発し、そこから生まれた疑問をもとに課題を設定する。そうすることにより、学習が自分事となり、学習に主体的に取り組もうとする意欲が高まると考える。

【②ねらいや学習課題、学習の流れの明確化】

ねらいや学習課題については、常に児童の目にとまるように、必要に応じて掲示をしたり板書をしたりする。加えて、学習の始まりには必ずねらいや学習課題を確認し、その時間で何ができるようになるべいかを確認する。そうすることによって、児童が何をすべきかを意識して学習に取り組みやすくなると考える。学習の流れに関しては、総合的な学習の時間に限らず、各教科においても探究の学習過程を児童に経験させることで、児童にとって学習の流れが明確になるようにする。加えて、単元の学習の中で今の時間は探究の学習過程のどこに位置づくのかを意識させる。そうすることで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができる考える。

【③まとめや自己評価・相互評価による振り返りの場の設定】

学習のまとめとして行う表現活動に関しては、児童と合意形成をしながら評価基準表を作成し、自己評価や相互評価を行いながら練習に取り組む。そうすることで、児童は目指すべき姿を具体的に想起しながら学習に取り組むことができる考える。また、自分たちの学びについて客観的に評価することで、自分たちが学習してきたことや新たな課題を自覚できるようになり、学習したことがより深まったり、定着したりすると考える。

○研究の視点（２）

子ども自身の思考や表現に結びつくような学習の場（学習プロセス）を工夫すれば、お互いの思いや考えを共有し合い、さらに深めていこうとする子が育つであろう。

【①個人思考を深める手立てや位置づけの工夫】

・ワークシート、ノート指導、資料の提示、操作活動等

ノート、ファイル、タブレットにそれぞれ継続して情報を蓄積することで、自分たちが収集した情報を整理・分析し、学びを深めることができる考える。整理・分析の際に比較したり、分類したりする情報については、タブレット端末上に保存することで、児童が操作活動を経て、情報を活用し、思考が深められると考える。

【②ペア学習やグループ学習など、思いや考えを表現する場の工夫（思考過程の共有化）】

- ・具体的な言語活動の工夫
- ・話し合いの形態の工夫

ペアで情報の整理・分析を行い、個人思考を経て、自分の考えをグループで表現するなど、話し合いの形態を状況や課題に応じて工夫する。そうすることで、土台となる情報の活用に関しては共通理解をした上で、一人一人が思考を深めることができ、それをグループで共有することによって、多様な考え方に触れることができると考えられる。

○研究の視点（３）

情報活用の視点を明確にし、学習の中で児童がＩＣＴを活用する場面を設定すれば、課題解決に向けて思考・判断し、表現する力が育つであろう。

【①情報収集、整理・分析場面でのタブレット端末の利用】

・情報の整理、根拠や理由場面の撮影等

操作活動に必要な情報については、タブレットで一貫して情報を収集し、蓄積していくことで、情報の管理を一元化する。そうすることで、蓄積した情報をロイロノート上のシンキングツールを用いて整理・分析をしたり、自分の根拠として提示したりすることが容易となり、自分自身の思いを表現する力が育つと考える。

【②グループ学習での共同学習ツールとしてのタブレット端末の活用】

・ロイロノート等の授業支援ソフト

ロイロノートを活用することにより、グループ間で容易に情報のやりとりをすることが可能になる。そうすることで、より広く、職業選択の理由や仕事のやりがいに関する情報を収集することができると考えられる。より多くの情報を共有したり、多様な整理・分析の視点を共有したりすることで、児童の思考が深まったり、表現する際の根拠が豊かになると考える。

【③発表場面で、根拠資料としてのタブレット端末の利用】

・Pen Plus Classroom 等の授業支援ソフト、プレゼンアプリ、写真、動画の活用等

ロイロノートを用いてプレゼンテーションのスライドを示すことで、それまで収集した情報を活用して、情報を整理・分析した上で、根拠として提示しながら、自分たちの思いを発表することができると考える。発表に関しては、ペアやグループなど、小規模な発表の活動も単元の中で計画的に実施し、資料をもとに自分の考えや思いを表現する力を育成する。繰り返し表現活動に取り組むことで、発表することへの抵抗感を少しずつ和らげ、自信をもって自分の考えを表現することにつなげたい。

4. 本単元で身に付けたい情報活用能力

- ・課題解決に必要な情報を整理し、根拠に基づいて判断する力（Ｂ-ア）～ウ）
- ・自分の考えを相手に分かりやすく伝える力（Ｂ-カ）、キ）

5. キャリア教育の視点

- ・将来の夢や希望をもち、実現をめざして努力しようとする。（キャリアプランニング能力）

6. 指導計画と評価計画（全30時間 本時 14／30時）

次	時	主な学習活動	評 価			
			知・技	思 判 表	態 度	主な評価規準
一 「自分を見つめなおそう」	1	- 自分の興味のあることや好きなことがなぜ好きなのかなど、自分について掘り下げる。 - お互いの「良さ」を伝え合い、自己理解を深める。			○	☒ 将来に向けて自分について掘り下げ、自己理解を深めようとしている。 （行動観察・発言）
	2	パーソナルポートフォリオを作成し、友達に発表する。		○		☒ 自分の好きなことや、興味関心のあることについて伝えようとしている。 （ワークシート）
二 「仕事の選び方ややりがいを探そう」	1	どのような仕事があるか調べる。	○			☒ 様々な仕事について、仕事の内容を理解している。 （ワークシート）
	2	仕事を種類ごとに分類する。		○		☒ 仕事を設定した観点に沿って分類している。 （ワークシート）
	3	どのような理由で仕事を選び、どのようなことが仕事のやりがいになっているのか調べる。	○			☒ 仕事を選択した理由や、やりがいがあることを理解している。 （行動観察・発言）
	4					
	5					
	6	調べてきたことを友達と共有するためにまとめる。		○		☒ 自分が調べた仕事の仕事内容や、選んだ理由、やりがいについてまとめている。 （スライド）
	7					
	10	友達の発表を聞き、仕事を選ぶ理由や、やりがいについて理解を深める。	○			☒ 仕事が変わっても職業選択ややりがいには共通することがあることを知る。 （発言・ワークシート）
	11					
	12 本時					
三 「魅力ある仕事を探そう」	1	パーソナルポートフォリオと、仕事を選ぶ理由や仕事のやりがいについて学んだことから、自分の興味関心から仕事を探す方法を知る。	○			☒ 自分の興味関心に繋がる仕事があることに気付いている。 （ワークシート）
	2	自分の興味関心をもとに、自分にとって魅力ある仕事		○	○	☒ 自分の興味関心に関係のある仕事について考えている。
	3					

	4	探しをする。				態：これまでに学習した職業観を生かして調べている。 (行動観察・ワークシート)
	5	・探してきた仕事についてその魅力や、自分の興味関心とのつながりをまとめる。		○		思探した仕事と自分の興味関心がどうつながるのかを考えている。 (行動観察・ワークシート)
	6					
	7					
	8	・自分の興味関心とつながりのある仕事内容や、その仕事に必要な能力について発表し合う。		○		思その仕事に必要なことを考えて発表している。 (行動観察)
四 「夢を語ろう」	1	・魅力ある仕事新聞を作る。		○		思調べてきた仕事についてその魅力が伝わるようにまとめている。 (スライド)
	2					
	3					
	4	・これまでの成果物を生かして、将来に向けての計画書を作成する。		○		思自分の将来について考えて計画書を作成している。 (ワークシート)
	5					
	6					
	7	・表現を工夫して発表する。		○	○	思自分の将来に向けての計画を分かりやすく表現している。 態学習を生かして将来の目標をもち、行動しようとしている。 (行動観察・ワークシート)
	8					

7. 本時の学習

(1) 目標

様々な仕事の職業選択の「理由」や、その仕事の「やりがい」を比較・分類することを通して、職業選択の「理由」や仕事の「やりがい」について職業を越えて共通する視点を見出し、自分が参考にする視点をもつ。

【思考・判断・表現】

(2) 展開

	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 (○)・評価 (【 】)	ICT 活用
	1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてと、学習の流れを確認する。	○前時までの学習を具体的に想起させるために、タブレット画面を見せる。 蓄積した情報を振り返り、前時までの学習を具体的に振り返りやすくする。	
働いている人は、どのような「理由」や「やりがい」をもっているのだろうか。			

2. 取材してきた内容を発表（1グループ）する。 ○取材してきた仕事について、その仕事を選んだ「理由」や「やりがい」を中心に発表する。 ○発表後、「理由」「やりがい」について一枚一事項でまとめたカードを他の班に配付する。 3. 仕事を選んだ「理由」や、「やりがい」に対する意識について、同じものでまとめて仲間分けをする。 ○これまでの発表から得られた「理由」「やりがい」に関するカードを、同じものはまとめたり、似ているものを近くに置いたりして整理する。 4. 整理・分析した結果を比較して、仕事選びの「理由」や仕事の「やりがい」について話し合う。 ○どのように仲間分けをしたか、仲間分けをしてみて気づいたことなどを何人かに発表させ、共通する価値観がないか考えさせる。	○いろいろな仕事の仕事選びの「理由」や仕事の「やりがい」と比べられるように、自分が調べてきたことや、これまでの発表と比べながら聞くように促す。 タブレットを活用して、スライドを提示して、自分が調べてきたことを分かりやすく友達に伝えられるようにする。 ○仲間分けしやすいように、必要であればこれまでのカードを仲間分けし直しても良いことを助言する。 【思考・判断・表現】 仕事選びの「理由」や仕事の「やりがい」について比較し、自分なりに仲間分けをして、ラベリングをするなど情報を整理している。（発言・ワークシート） タブレットの機能を活用して、収集してきた情報を共有しやすくする。 タブレット端末を活用することで、情報を試行錯誤しながら仲間分けができるようにする。 ○仕事によって違う視点と共通する視点があることに気づけるように、複数のグループのノートを同時に提示する。 タブレットの機能を活用して、複数のグループのノートを並べて提示して比較しやすくする。
5. 振り返り ○本時の学習を振り返り、自分はどういったことを大切にして仕事を選び、どういったことをやりがいとしたいのか、自分なりの考えをもつ。	仕事選びの理由ややりがいには様々なものがあるが、「社会の役に立ちたい」「自分の得意なこと」など共通することもある。

(3) 評価

評価の観点	十分満足と 思われる児童の姿	概ね満足と 思われる児童の姿	支援が必要と思われる 児童への手立て
思考・判 断・表現	仕事を選んだ「理由」や 「やりがい」を自分なり の視点で整理し、それぞ れがどのような関係にあ るか検討している。	仕事を選んだ「理由」や 「やりがい」を自分なり の視点で整理している。	・仕事は違って共通する ものはないか声をかける。 ・他のグループの整理の視 点を参考にさせる。

(4) 研究の視点

タブレット端末を用いたことは、児童の思考を促したり、共有したり、整理したりするのに有効であったか。

マイ ポートフォリオ

名前 ()

① 自分の良さを見つけ直そう

--	--

② 自分の得意なこと

--

③ 自分の好きなことを掘り下げよう

--

ふりかえり

--

自分の「仕事」を探してみよう

・自分の「夢の仕事」「夢に近い仕事」「今まで知らなかったけど自分に合いそうな仕事」を探して、仕事観を広げよう。

夢の仕事：

--	--

仕事の内容

どうやって就職するの？

夢に近い仕事

--	--

仕事の内容

どうやって就職するの？

--	--

自分に合いそうな仕事

--	--

仕事の内容

どうやって就職するの？

--	--

ふりかえり

--

自分の「仕事」を探してみよう

() 番 名前 ()

・自分が実際に仕事に選んで、就職活動をするときに、困りそうなこと、不安なこと

・困りそうなことの解決策

・ふりかえり



将来について考えよう

() 番 名前 ()

○将来について考えたときに、困りそうなこと、心配なことを解決方法。

＜調べて解決できそうなこと＞

- ・大学関係
- ・お金がどのくらいかかるのか
- ・仕事内容や仕事の環境

＜インタビューして解決できそうなこと＞

- ・自分に合った仕事の探し方、運び方
- ・人間関係で困ることや、乗り越え方
- ・仕事内容や、仕事をする環境について

＜インタビューすべきこと＞

＜インタビューするときのポイント＞

＜インタビュー場所希望＞

①	②	③	④	⑤





深掘りインタビューをしよう

() 番 名前()

○インタビューする内容を検討して、インタビュー練習をしよう。

<インタビュー>

<インタビュー内容>

①

<ふりかえり>



8. 指導の実際と考察

(1) ねらいや学習課題、学習の流れの明確化 研究の視点(1)ー②

ゴールイメージを児童と共有したり、どうすれば解決できるのか学習計画を児童と作成したりしたことによって、見通しをもって学習に取り組むことができた。また、学習活動に対して解決策を児童自身がもっている際には主体的に学ぶ姿が見られた。

しかし、単元を通して児童が自分の思いや考えをもち、主体的に学習に関わろうとしたかといえは十分ではなかったように感じる。

原因として次の2点が挙げられる。

1 点目は学習課題を児童から十分に引き出すことができず、教師から与えられたものになってしまった点である。今回のようにある程度学習する内容が事前に決まっている状況において、児童からどのように課題意識を引き出し、主体的な学習態度に結びつけるかは今後の検討が必要である。

2 点目は単元の学習を、児童が自分たちで



自分の考えを主体的に伝え合う児童の様子

進められるほどの学習経験を、本単元の学習までに積ませることができなかった点である。その結果、課題解決に際してその都度教師の指示や教示が必要となり、学習の進度が個々の児童に応じたものにならなかった。児童が自分の中にある解決手段の中から適切な手段を選択し、ある程度個別に最適化された学習の進度が実現されることによって、児童が学習への興味を失わずに主体的に取り組むことができると考える。



自分が調べてきたことを発表している様子

（２）ペア学習やグループ学習など思いや考えを表現する場の工夫 研究の視点（２）—②

本時の学習では、自分たちが調べてきたことをプレゼンテーションにまとめ、友達に伝え、その情報をクラスで共有し、共有した情報を分類し、要約することで学習課題の解決を目指す学習を設定した。そうすることで、児童は発表することの意義を実感し、自分たちが調べてきたことを分かりやすく相手に伝えようと努力していた。



グループで自分の考えを説明する様子

また、ICTを活用し、自分の考えをもとに分類した結果が手元のタブレットに表示されていることで、どのように考えて分類したのか、その結果からどのようなことを考え要約したのかといった、自分の考えを友達に進んで主体的に説明する姿が見られた。また、友達の説明を聞いて自分の分類の仕方や要約の仕方を修正する姿も見られ、学習が深まっている様子が伺えた。

（３）情報収集、整理・分析場面でのタブレット端末の利用 研究の視点（３）—①

本時の学習に向けて、情報を収集し、分類し、分類したそれぞれのグループが何を意味するのか意味を見出し、自分たちの課題解決に取り組む学習を段階的に積み重ねた。

具体的にはそれぞれが情報を収集し、収集した情報をICTを活用してクラスで共有する、共有した情報を観点に沿って分類する、分類したグループにラベリングをして要約するという学習に段階的に取り組んだ。本単元の学習であれば、仕事のやりがいについてフィールドワークによって情報収集し、ロイロノートに打ち込んだ。その後、収集した情報をプレゼンテーションした上で共有し、各自が分類をした。分類する際にはそれぞれが適していると考えられる思考ツールを使ったり、自分で表

を作成したりして分類する姿が見られた。また、分類した上でそれらのグループにラベリングをしてどのような考えがあるのか概要をつかむことができた。この一連の学習活動は、教師の指示が無くとも児童が主体的に進めることができた。これは、普段の教科の学習の中でも探究の過程を意識し授業を設計し、繰り返し児童が探究の過程を経験したことによると考えられる。分類する、要約するといった思考スキルは単発の学習で身に付くものではなく、学習の中で繰り返し経験すること

によって身に付く。今回児童が主体的に学習を進めることができたことから、児童がICTを活用して分類する、要約するといった思考スキルを身に付けることができたと考えられる。

従来であれば付箋紙等を用いて同様の学習は行われていたが、簡便に繰り返し取り組むことができ、学習の成果を蓄積し、振り返ることができるといった点で、本時や本時に向けての学習においてICTを活用した効果は大きいと考えられる。



児童が分類、要約した情報

（４）成果と今後の課題

本単元の学習を通して、友達と情報や思考の過程を共有して学習を深める力や、情報を収集、整理・分析して自分の考えを深め、表現する力を育成することができた。

今後の課題として、３点を挙げる。

１点目は児童のICTスキルの向上である。一定のICTスキルを身に付けさせることができ、それが学習活動を支えていた。しかし、十分なICT活用スキルが身に付いているとは言い難い。例えば入力の速度が向上すれば短時間に児童の思考はより活性化し、それをICTを介して共有することでより学習が対話的で深いものになることが期待される。ICT活用が授業の内容をより深化させるに至るようになるには、児童のICT活用スキルをより高める必要がある。

２点目は、授業のねらいの設定についてである。本時の学習では分類し、要約した上で、どのようなやりがいがあるかということ概観するまでの学習であった。しかし、「自分が参考にする視点をもつ」という本時の学習目標からすると、やりがいを分類、要約した上で、自分はどのような考えを参考にし、どう考えるのかということ表現するところまでを、１時間の中で学習として成立させるべきであった。基本的な授業設計についてはICT活用の有無に関わらず、教師の授業力として変わらず磨かなければならない点である。一方で、１点目の課題と重なるが、そのような学習量の充実した授業を達成するためには、ICTを使いこなせる児童を育成し、効率的に学習を進める必要がある。

３点目に課題設定能力の育成についてである。児童が主体的、対話的で深い学びを実現するためには、児童自身が学習に対して必要感をもっていることが重要である。そのためには課題を自ら設定し、課題を解決したいという願いをもつことが必要となる。そうすることで、学習活動が児童にとって必要感のある解決すべき切実なものになり、自分の考えを表現して伝えたい、相手の考えを知りたいという学習に成り得ると考える。児童の課題設定能力を育むために、各教科の中で課題を作り、解決のための見通しをもつ学習に繰り返し取り組むなど、計画的に取り組む必要がある。また、児童の振り返りを生かして課題を設定することで、児童が主体的に取り組む学習が実現されと考えられる。